

来賓挨拶

ファイザー株式会社 代表取締役社長
梅田 一郎

出捐企業であるファイザーを代表して、一言、ご挨拶申し上げます。

はじめに、本日の第23回ヘルスリサーチフォーラム及び平成28年度研究助成金贈呈式開催にあたりまして、研究成果発表者の方々、選考委員長 永井良三先生、各セッションの座長の労をお取りいただいております先生がた、ご参加いただいた皆さまに、心より感謝いたします。そして、本年度の研究助成を受賞される皆さまには、心よりお祝い申し上げます。

グローバルファイザーの企業スローガンは、Working together for a healthier world…より健康な世界の実現のために、というもので、私たち日本のファイザー株式会社のビジョンは、日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になるということです。このビジョンを達成するためには、企業として、優れた製品を開発する努力だけでなく、ヘルスケア全般に関わる様々な社会事業への参画支援、すなわち社会貢献活動が非常に重要であると考えています。ファイザーでは、ヘルスケア関連団体へのサポート、市民活動団体への助成プログラム、また、社員によるボランティア活動の助成など、様々な活動を通じて、本業だけでは解決できない課題にも取り組んでいます。そのファイザーにおける社会貢献活動の一つとして、1992年に設立されたファイザーヘルスリサーチ振興財団に対する支援は、当社の最も重要な活動と位置付けています。

先ほど、島谷理事長のご挨拶の中に、ファイザーヘルスリサーチ振興財団のこれまでの助成件数、助成金総額、また、今年度の助成規模の増額などのお話でしたが、ヘルスリサーチの重要性がますます高まっていること、そして、研究の輪が広がりつつあることを実感し、その中で改めて財団の存在意義を再認識しているところです。そしてこれは、歴代役員、選考委員の先生がた、また様々な分野でヘルスリサーチに取り組んでおられる皆さまがたのご尽力無しには成しえなかったことであり、心より感謝申し上げます。今後とも、財団支援をはじめ、様々なプログラムを通じて、継続的な社会貢献活動を実施していきたいと考えています。

さてここで、ファイザーの近況や会社を取り巻く環境につき、少しご報告させていただきます。ファイザーはグローバルでは、一時、医薬品トップ企業の座を譲っていましたが、直近のランキングを見ると、大変僅差ではありますが、また首位の座を取り戻しているようです。日本においては、大変業績を苦戦しつつも、ここ数年は首位の座を保つ

ています。特許が切れればすぐにも売り上げを失っていく医療用医薬品のビジネスで、長くリーディング企業であり続けることは大変難しいことですが、アンメット・メディカル・ニーズに応える優れた医薬品を提供し続け、業界を代表するリーディング企業であり続けたいと考えています。現在、政府の経済財政諮問会議や中医協において、いわゆる高額医薬品の問題が議論されています。医薬品イノベーションを社会保障費コントロールの観点からいかにファイナンスするかという問題です。こうした難しい問題に対しても、リーディング企業の誇りと責任を持って、しっかり対応していきたいと考えています。

最後になりましたが、本日参加された全ての皆さまの、ますますのご健勝とご研究の更なる発展を心より祈念して、簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。